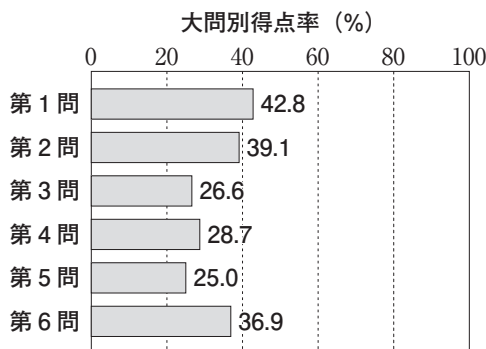
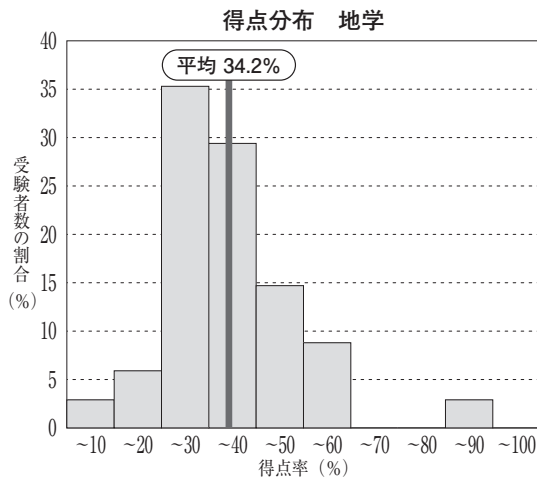


地 学

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は34.2点であった。4月時点では、まだ全範囲の学習を終えていないと思われるため、得点の低さを過度に心配する必要はない。ただし、学習済みの範囲でしっかりと得点できていたかどうかを確認してほしい。なお、「地学」は「地学基礎」に比べて学習項目が多いが、教科書をしっかりと理解することで高得点を狙える科目である。着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 地球

知識を論理的に捉えよう。

Aでは重力についての基礎的理解を確認した。重力については2017年と2015年のセンター試験でも出題されている。重力異常についても復習しておこう。

Bでは地下増温率と地球内部の温度についての理解を確認した。グラフから必要な情報を読み取れるようにしておこう。

Cではプレートの移動方向と速度の推定についての基礎的知識を確認した。センター試験ではプレートの移動に関する問題は頻出である。幅広く復習しておこう。

Dでは断層の動きと地震の初動の関係についての理解を確認した。初動の押し引きについては2016年のセンター試験でも出題されている。仕組みを正しく理解しておこう。

第2問 岩石・鉱物と地質

図を描いて考えよう。

Aでは化学岩と続成作用についての理解を確認した。センター試験では火成岩や変成岩についての出題が多いが、堆積岩についても整理し復習しておこう。

Bでは走向・傾斜の理解と地質図の書き方の理解を確認した。地質図に関する問題もセンター試験では頻出である。走向と傾斜から、解説の図のような露頭線を自分で作図できるようにしておこう。

Cでは古生代以降の大量絶滅と生物の変遷についての基礎的理解を確認した。地質時代の区分と各時代の主な出来事や特徴を年表にまとめておこう。

第3問 大気と海洋

仕組みを理解し応用しよう。

Aでは大気圏の構造とオゾンホールについての総合的理解を確認した。オゾンに関する問題は2015年のセンター試験でも出題された。オゾン層

破壊の仕組みについて理解しておこう。

Bでは環流とコリオリの力についての基礎的理解を確認した。環流についての問題は2017年と2015年のセンター試験でも出題されている。海洋上の風についても確認しておこう。

Cではフェーン現象についての理解と計算力を確認した。考え方を理解しておけば計算は決して難しいものではない。慎重に取り組もう。

第4問 宇宙

法則を使いこなそう。

Aでは太陽のすがたとその活動についての総合的理解を確認した。太陽の黒点については2017年のセンター試験でも出題されている。また、シュテファン・ボルツマンの法則を使った問題は2016年のセンター試験でも出題されている。

Bでは銀河系の構造についての理解を確認した。ダークマターや球状星団に関する問題は2018年と2017年のセンター試験でも出題されている。ケプラーの法則についても復習しておこう。

第5問 地球の構造と地磁気

地球の内部構造や磁場について理解しよう。

Aでは地球内部のP波速度と地球の平均密度の求め方についての基礎的理解を確認した。地震波の伝わり方は2018年のセンター試験でも出題されている。地球内部の密度や圧力の変化についても確認しておこう。

Bでは地磁気についての基礎的理解を確認した。地球の磁場と地磁気の三要素について、用語と意味を正しく理解しておこう。

第6問 大気と海洋の運動

グラフや図を読み取ろう。

Aでは大気の安定・不安定についての理解を確認した。大気の安定・不安定については2017年のセンター試験でも出題されている。解説のグラフの読み方を理解しておこう。

Bでは海洋の深層循環についての基礎的理解を確認した。深層循環の仕組みと様子について復習しておこう。

なお、第5・6問は選択問題になっている。両問題をざっと見比べた上で、学習の進捗状況などに合わせて取り組みやすい方を選択すればよい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学について。

センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を徹底し、教科書を徹底理解することが大切である。そのために、教科書の通読から始めよう。はじめは、理解しようとか暗記しようとか考えず、地学の内容を概観することが大切である。地学は地球物理、プレートテクトニクス、岩石・鉱物、地質・地史、気象、天文、自然環境と範囲が多岐にわたっている。これらについてどんなことを学ぶのか、どのような図表やグラフがあるのか、大体のイメージを最初に作っておくことがその後の学習に役立つ。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学は暗記科目ではないということである。

教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。このときに大事なことは地学の各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされて、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。教科書の図やグラフはセンター試験に繰り返し出題されている。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。また、各分野がそれぞれに関連しあっていることも多い。どのように関連しているかに注意して学習を進めよう。

◆模試を活用しよう。

「地学」にはセンター試験の過去問がまだ少なく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。